特別対談

BP キャピタル株式会社社長 松多洋一郎氏 ×藤澤一就八段



藤澤一就一門後援会理事の松多洋一郎氏が自身の囲碁歴を振り返りながら、囲碁を通じて得た経験、人脈、そして能力がいかにビジネスや人生に活かされてきたかを多角的にお話下さいました。

藤澤：松多さんとの最初の出会いは、松多さんが東京大学囲碁部の主将、私はまだプロになる前でした。その後、囲碁普及をしていく中で、関東学生囲碁連盟の副会長をされている松多さんと再会し接点が復活しました。
今回は、囲碁の考え方をどのようにビジネスに活かしているかを伺いたいと思います。

―ご経歴

松多洋一郎（まつた　よういちろう）氏
東京都出身。東京大学経済学部卒業。生命保険会社に就職し、60 歳まで主に資産運用業務に従事。2020 年に 60 歳で退職し、ベンチャーキャピタル「BP キャピタル」を創業。

―主な戦績

松多：個人戦では、高校選手権全国 4 位、学生十傑戦全国 3 位、世界アマチュア選手権日本大会 4 位、東京都アマチュア本因坊戦優勝。米国滞在中に全米アマ名人を二度獲得し、日本人初の優勝者として朝日新聞「ひと」欄で紹介されたこともあります。
団体戦では、大学選手権で全国優勝、社会人実業団の団体戦で多数の優勝を経験しました。

―囲碁との出会いと学習法

松多：12 歳の時、いとこの家で将棋を指しに行った際に囲碁を教わったのがきっかけです。その日から虜になりました。いとこの教え方が上手だったのだと思います。
中学から高校途中まではほぼ独学で、毎日一冊のペースで本を読破していました。
高校 2 年でアマチュア強豪の菊池康郎氏の研究会に誘われ、実戦的な強さを身につけることができました。
大学時代は囲碁部に没頭し、2 年生から卒業まで主将を務めました。社会人になってからも研究会に入るなど囲碁の勉強を続け、実践力も身につけていきました。

―現在の囲碁との関わり

松多：現在は実践よりも普及・指導に重きを置いています。
全日本大学 OBOG 会会長、全日本学生囲碁連盟副会長など多数の役職を務め、OB や現役学生との関わりが非常に強いです。

藤澤：菊池さんは山下敬吾九段など多くのプロを育てた方ですね。当時はまだこども教室などなかった時代ですが、高校生や大学生を集め、若手育成に尽力された方です。強豪大学の主将クラスの人が集まって勉強し、皆さん熱心でしたよね。

松多：僕らも熱心でしたが、菊池さんはじめアマのトップの方が熱心に指導してくれました。今から思うととても貴重な場でした。当時のつながりが、今でも続いています。囲碁のつながりは一生ものです。

―囲碁がもたらす能力とビジネスへの応用

藤澤：では次に、囲碁とビジネスについてお願いします。

松多:大学時代は、囲碁ばかりやっていて勉強はろくにした記憶がありません。

藤澤：でもちゃんと授業出てないと卒業はできないですよね。

松多：今の人はまじめですが当時はいろいろ上手くできまして、運よく 4 年で卒業できました。囲碁で知り合った人とのつながりは強固で、一生途切れません。

大学時代の先輩の誘いで生命保険会社に就職し、入社後３年間位はその先輩と毎日囲碁を打っていて、銀座の高級囲碁サロン「天元」へ行って政財界の名士とも交流しました。
ニューヨーク駐在時代には「日本クラブ」の囲碁部で中心的存在となり、囲碁をきっかけとした交流が広がりました。

藤澤：天元は、当時お酒も飲めて女性インストラクターもいて、国会議員や財界の方もたくたん来て賑わっていましたね。企業や経営者にも囲碁を打つ方がたくさんいて、囲碁が営業にも活かされる時代でしたね。

松多：現在のビジネスを始めようと思ったきっかけと、その思考・発想は何に由来しているか、と言いますと、私の人生は本当に囲碁と共にありまして、すべての行動が囲碁に由来しているといっても過言ではないのです。
生命保険会社で資産運用をしていましたが、今の BP キャピタルも広い意味では資産運用ビジネスです。できたばっかりのベンチャー企業に投資をして成長をさせて、成長して成功すれば投資した資金が回収できる、というファンドを運営しています。

松多：資産運用ビジネスやベンチャーキャピタル経営には、マーケットを先読みする力や大局観、戦略的思考が求められ、これらは囲碁で培われる能力と親和性が高いと言えます。
生命保険会社での資産運用もそれなりに面白かったのですが、大きな組織の中での運用なので、どうしても駒として動いている感じがしました。
今は経営者となり、駒を動かして自分のやりたいことができています。
資産運用の実務でも、読みとか戦略とかが求められますが、あらゆる面で囲碁で培った能力が役立っていると感じます。

―囲碁から得られる能力

松多：囲碁から得られる能力としていくつかキーワードをあげると、まず「集中力」です。
囲碁に没頭しているときは間違いなく集中しています。
高校時代に「囲碁をやっていて何が良かったですか。」とインタビューされ、とっさに「集中力が養われました。」と答えたのを覚えています。

松多：次に、「大局観」。部分にとらわれず全体を見る力です。囲碁では非常に重要な力ですが、人生においてもビジネスにおいてもとても必要とされる能力です。

松多：そして、「思考力」。論理的に考える力とか、正しく先を読む力。実際には、読んでも

読みきれないことがありますが、「読もうとする」ということです。自分に都合がいい読み方をするのではなく、正しく先を読む力をつける頭の鍛錬・訓練が大切です。

松多：「構想力」。大きな絵を描いて作戦を考える力です。そして、「判断力、決断力」。読むだけでなく、読んだ結果どちらがいいのかを優劣をつけて、選択肢を絞り込み決定する力です。
最後に、経験に裏打ちされた「直感力」が挙げられます。実際には、読まなくても、直感である程度判断できるようになります。これが非常に大事かなと思います。直感がどれだけ正しいかは過去の蓄積が重要で、そのためには繰り返し学ぶことが必要です。

松多：最近、AI が囲碁で非常に強くなってきて人間を超えちゃったので、 AI が打つ手には、人間では今まだ意味が分からない手がいっぱいあると思うのです。それでもそういう強い AI の手をひたすら学び、学習することによって、それが人の身になって肉になって実力を上げていく。それが直感力につながっていくと思います。
これは囲碁だけでなく、ビジネスとか人生においても多分同じことなのだと思います。

藤澤：大局観は絶対的なものでなくて、人や状況によって非常に差があるものですね。固定的ではなく、集中して思考を深めることで常に向上させる必要があると思います。
若いうちは自身の判断力を過信せず、思考を重ねる姿勢が重要です。
若くしてちょっと成長が鈍っていってしまう方は、自分の直感力がそんなに正しくないにもかかわらず、これはこうだよって決めてしまい、裏付けを取らなかったり、その思考を深めないからだと思います。思考を深めることが成長の糧になると思います。
ある程度年齢を重ねると経験を優先して判断していくっていうこともあると思うのですが、若いうちは、常に集中して思考することが大局観、直観力、判断力を高めていくことにつながります。そしれこれは囲碁だけでなく、他のことにも共通している部分なのだと思います。

―囲碁を通じた人脈形成

松多：現在経営する BP キャピタルでは、学生囲碁界で接点のあった方をアドバイザーとしてお迎えしたり、東大囲碁部の後輩である弁護士に取締役を務めてもらったり、取引先を紹介してもらったりなど、囲碁のネットワークが事業に活かされています。

藤澤：社会人になると、ちょっとの付き合いで人を紹介したり仕事に協力したり、はなかなかできないと思います。囲碁を通じて相手との信頼関係が醸成されて、それがネットワークの広がりにつながっていかれたのかなと思います。

― AI 時代の囲碁学習とビジネスの将来性

松多：現在の囲碁の学習は、AI アプリを使えばいつでも最善手や形勢判断を知ることができ、非常に恵まれた環境にあります。
一方、AI が示す手は今までの自分の知識では理解しがたい手も多い。けれどそれを「そういうもんなんだ」って繰り返しインプットすることで、理解できてなくても自分の能力の一つにはなってくる。反復学習することで直感力として養われます。さらに、AI の手の意図を自分なりに考察することで、より深い思考が定着すると思います。
藤澤：AI の活用法はプロ棋士でも同じようにしています。AI が示した手をより深く自分なりに考えることで、身につくスピードが速くなっていく。検証することで脳に吸い込まれていく感覚になります。
だんだんと AI の手法に寄っていく時期もありましたが、今はさらに考察が進んでいて AI だったらこの辺を示しそうだけど、自分はこうしよう、と活用して考えられるようになっています。活用して上昇させていく、という段階にきています。

―囲碁の将来性

松多：現在、囲碁業界は縮小傾向にありますが、潜在的なファン層は大きく、工夫次第でビジネスとしても大きな可能性があります。藤澤先生も私も、なんとかまた囲碁業界を盛り上げたいと努力をしています。
今後については、ほぼ私の人生が囲碁と共にあるという人生なので、これからも囲碁を続けていきたいと思っています。囲碁は本当に楽しいゲームです。暇があれば、居ながらにしてネットで囲碁を楽しむことができます。また、分からないことがあれば、AI に聞けば大体分かります。本当に有能な家庭教師が常に身近にいる。これは、私が小さい頃囲碁を覚えた時代とは環境が変わって、進歩しています。
今、囲碁をやる人は非常に恵まれた環境があるのです。プライベートでも楽しみ、人生を充実させて、ビジネスでもそれを活用して、あらゆる局面で囲碁を活かして行けたらいいと思っています。

藤澤：松多さん、本日は囲碁とビジネスについて貴重なお話をありがとうございました。

